

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名:名寄市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>名士バス(株)</p>	<p>下多寄線 西風連～風連駅～名寄駅</p>	<p>利用者数の維持・増加を図るため、毎年4月にアンケート調査を実施し、利用者満足度や、乗降場所指定場所の見直しに取り組んでいる。令和元年10月からはアンケート調査結果から、1箇所の乗降場所を追加するなど、利用者ニーズを反映している。 また、令和元年5月に策定した名寄市地域公共交通網形成計画に基づき、デマンド運行エリアの老人クラブにて乗り方の出前講座を行うなど、積極的なモビリティマネジメントに努めた。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンド型交通の利用者数の向上 月平均利用者数 目標270人/月 → 実績268人/月 利用が減少しており、目標値▲2人/月であった。 ・デマンド型交通の利用者満足度の向上 目標80%以上 → 71.4% 平成31年4月実施のアンケート調査において、運行便数・運賃・利用総体の各項目において「普通」の回答が増えているが概ね高い満足度であった。 ・効果 冬期間のみならず、通年(323日稼働)での利用があり、住民への公共交通手段の提供が、適切に行われた。 	<p>運行から8年が経過し、地域への定着が進んだものの、今年度も利用者の減少が続いている。 考えられる主な要因としては、運行地域における人口の減少や学生の進学等による利用減少のほか、免許返納者などの新規利用者が増えていないことなどが考えられる。 そのため、新規利用者の拡大に向けて出前講座などを引き続き機会を捉えて実施するほか、バスの乗り方ガイドなどを作成し、利用促進を図る。 利用者アンケートの満足度は「普通」の回答割合が増えているものの、引き続き市街地や交通結節点である駅等への交通手段を確保するため、ニーズに応じた乗降指定場所の見直しなどを行いながら、今後も継続した運行を計画する。 しかしながら、下多寄線の利用状況は平成25年度のピーク時の約半分まで減少していることから、平成20年度(路線廃止前)の乗車数2,579人を下回った場合は路線の在り方を再検討する必要がある。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名:名寄市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>名士バス(株)</p>	<p>御料線 風連日進～風連町内～道の駅</p>		<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンド型交通の利用者数の向上 月平均利用者数 目標200人/月 → 実績199人/月 利用が減少しており、目標値▲1人/月であった。 ・デマンド型交通の利用者満足度の向上 目標80%以上 → 62.5% 平成31年4月実施のアンケート調査において、運行便数・運賃は、満足度が高い傾向にあるが、利用総体においては、名寄市街地への乗り換えの不便さからあまり満足度は高くなかった。 ・効果 冬期間のみならず、通年(341日稼働)での利用があり、住民への公共交通手段の提供が、適切に行われた。 	<p>運行初年度なので、地域への定着はこれからだと思われる。そのため、新規利用者の拡大に向けて、PRチラシやホームページとあわせ、出前講座などを引き続き機会を捉えて実施し、利用促進を図る。 利用者アンケート調査において、運行便数・運賃は、満足度が高い傾向だったが、利用総体においては満足度が高くなかったため、ニーズに応じた乗降指定場所の見直しなどを行いながら、今後も継続した運行を計画する。 しかしながら、学生など若い世代の利用が見込めず、ほとんどが高齢者の利用となっているため、次年度以降の利用状況を踏まえ、デマンド以外の可能性を含めた、将来的な路線の在り方を検討する必要もあると考える。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	名寄市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>名寄市は、北北海道の中央に位置し、面積は535.23Km²、人口27,582人(平成30年12月末日時点)の規模である。近年、人口の減少や自家用車の普及により、路線バスの利用者が低迷し、効率的な方法による公共交通の運行が必要となっており、クルマを所有していない市民も数多く存在しているため、「買い物」や「通院」等の移動に困らない交通システムの確保が求められている。</p> <p>当該デマンド交通の運行地域は、住居が低密度に広く分散し路線バスの利用がしづらい交通空白地帯である。日常生活に不可欠な地域の交通手段の確保とともに、当市に所在するJR名寄駅、風連駅と居住地域を結節し交通のネットワークを形成する目的で導入しているものである。</p>